

| | | | | |
|---|--|------------------------------|---|--|
| <p>《高知県の教育の基本理念》</p> <p>(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材</p> | <p>《取組の方向性》</p> <p>(1)チーム学校の推進 (2)厳しい環境にある子どもたちへの支援 (3)地域との連携・協働 (4)生涯学び続ける環境づくり</p> | <p>《目指すべき姿》</p> <p>児童生徒像</p> | <p>学校像</p> <p>(1)児童生徒が安全で安心して学べる学校 (2)保護者に信頼され任される学校 (3)地域に貢献し愛される学校 (4)職員がやりがいと喜びをもてる学校</p> <p>児童生徒像</p> <p>○健康で心も体も逞しい児童生徒 ○基本的な生活習慣を身に付けた児童生徒 ○社会と積極的に関わる児童生徒 ○意欲をもち粘り強く活動する児童生徒</p> | <p>目 向 指 け ず べ き 取 組 姿 の 概 要</p> <p>令和2～4年度までの中期目標</p> <p>○柱Ⅰ カリキュラムマネジメントによる授業改善からよりよい教育課程の編成 ・生活単元学習のイノベーション ・「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善 ・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学びに向かう力」の確実な育成</p> <p>○柱Ⅱ 基本行動の確立 ・温もりのある学校文化の醸成と豊かな心の育成取組</p> <p>○柱Ⅲ 働き方改革による児童生徒に向き合う時間の確保 ・ワークバランスの取れた学校経営の推進</p> |
|---|--|------------------------------|---|--|

《重点取組項目》 (評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:不十分)

| 項目 | 目標【P】 | 現状(●)と目標(○)【評価指標】 | 具体的な取組内容【D】 | 中間評価【C】 | 中間評価後の取組内容【PD】 | 年度末評価【C】 | 学校関係者評価 | 見直しのポイント【A】 |
|--|--|---|---|---|---|--|---|--|
| 柱Ⅰ カリキュラムマネジメントによる授業改善からより良い教育課程の編成 | (1)各教科を重視した教育課程の編成及び授業づくりの実践を行う。 | ●生活単元学習においては、行事単元を中心とした取り組みが多くなっており、課題単元を中心とした計画が十分に実施できていない。 ○各クラスにおける課題単元を中心とした生活単元学習の実施(100%) | ◇課題単元重視の単元計画の策定を行う。 ◇「地域・探究」をキーワードに社会に開かれた教育課程づくりの実現を行う。 ◇各教科の段階と内容を抑えたカリキュラムデザインの実現を行う。 | B ・全校が課題単元を年間計画に確実に盛り込み実践を進めることができてきた。 ・「地域・探究」を研究主題として取り組み、校外学習や宿泊学習につなげることができている。 ・「特別の教科道徳」を教科として教育課程に位置付け内容表を活用して実践できた。 | ・PDCAに従い、評価の集約と授業改善を行う。 ・「地域・探究」の実践を報告会で発表して紀要にまとめ、次年度につなげる。 ・道徳の実践を集約し、本校の道徳教育の方向性をまとめる。 | B ・課題単元重視の生活単元学習の年間計画を立て、それに基づいた授業実践ができたか。→肯定的評価 76% ・各教科(教科の段階)を重視した授業実践を進めることができたか。→肯定的評価 83% ・「地域とつながる」単元を設定し、授業の充実を図ることができたか。→肯定的評価 89% 保護者 90% ○課題単元中心の生活単元学習の実施については76%で10%とはならなかった。他の指標も70%以上とはなっているが、「少しそう思う」の割合が多くこれからの課題である。 | B ・行事等、参観の場が少なくて残念であったが、できる範囲で工夫して実施している。 ・コロナ過で大変であったと思われるが、工夫して「地域・探究」の取り組みを行っている。今後もより、充実させていってほしい。 | ・教育課程の中の生活単元学習の時間を教科に戻し、より教科の内容を重視した授業実践を充実させる。その際、児童生徒の実態に合わせて、合科や合わせた指導等の指導方法の工夫も行う。 |
| | (2)「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を行う。 | ●3観点での視点での授業改善が十分に行われていない。 ○3観点での授業評価を行う。新様式の学習指導案、学習指導案を活用した授業研究会の実施(100%) | ◇3観点での授業づくりの指標の策定を行う。 ◇授業改善システムの構築を図る。「主体的・対話的で深い学び」の視点における授業改善のポイントを活用した授業づくりを行う。 ◇校外学習実施計画の中でも、育成すべき資質・能力を3観点で明記する。 | A ・3観点に基づく学習指導案、学習指導案を活用した授業実践ができた。(100%) ・「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業づくりが年次研修教員を中心に実践できた。 ・授業評価表において、参観者が主体的・対話的で深い学びの指導ができたか、適切であったかを数字で明記できた。 | ・3観点に基づく学習指導案、学習指導案を活用した授業実践を引き続き行い、研究会でより多くの教員が発表する場を設ける。 ・授業評価表を活用し次時の改善につなげる。 ・校外学習実施計画の様式に3観点を明記し評価する。 | A ・3観点の授業づくりの指標の策定及び評価を行うことができたか。→肯定的評価 77% ・3観点を意識した授業改善を進める中で、新学習指導要領に基づく意識改革ができたか。→肯定的評価 83% ・3観点を意識した授業実践を進めることで、児童生徒の成長を実感できたか。→肯定的評価 72% ○中間評価では、確認できる研究授業等の学習指導案や学習指導案については100%であったが、学校評価アンケートの全体評価においては77%と低くなっている。導入当初の年度のため試行錯誤をしながらの実践であったためと考えるが、今後の課題である。 | A ・コロナ過の特別な状況で、子どもが自分の気持ちの中で折り合いをつけるなどの成長もみられた。 ・「主体的・対話的で深い学び」を充実を図るために、児童生徒の興味関心を引き出しながら、「地域とつながる」単元も取り入れた授業改善を行う。 | ・3観点に基づく授業づくりにおいては、引き続き、授業計画や指導案等の中でしっかりと位置付けるようにする。 ・「主体的・対話的で深い学び」を充実を図るために、児童生徒の興味関心を引き出しながら、「地域とつながる」単元も取り入れた授業改善を行う。 |
| | (3)「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学びに向かう力」の確実な育成を図る。 | ●児童生徒の実態把握の方法が、各学部で統一されていない。 ●個別の指導計画の中で、3観点到基づく把握ができていない。 ○「成長の記録」を使用し、実態把握を行う。(100%) ○個別の指導計画に関して、3観点を明確にして作成を行う。(100%) | ◇実態把握のツールとルールのシステム化を図る。 ◇実態把握に関しては、「成長の記録」を用いて、具体的に表記を行うことができるようにする。 ◇個別の指導計画を3観点到に区分して明記する。 | C ・実態把握に「成長の記録」と「指導内容表」を活用して具体的に表記できた。(小100%中72%高48%) ・実態把握に基づき、重点化する目標を3観点到で明記できた。(小100%中72%高69%) ・手だて、成果において、学習指導要領の各教科の内容を踏まえて記述できた。(小100%中69%高73%) | ・実態把握に「成長の記録」と「指導内容表」を活用するルールの定着を図る。(小100%中75%高60%) ・実態把握に基づき、重点化する目標を3観点到で明記する。(小100%中75%高75%) ・手だて、成果において、学習指導要領の各教科の内容を踏まえて記述する。(小100%中75%高80%) | B ・「成長の記録」等を参考に実態把握を行い、個別の指導計画を3観点到に区分して明記することはできたか。→81% ・個別の指導計画に関して、3観点を明確にして作成することについては80%となっている。 ○個別の指導計画を3観点到に区分して明記することはできているが、まだまだ「成長の記録」と「指導内容表」を活用せずに作成している状況があり、3観点到の内容についても十分でない状況が見受けられるため、今後の課題である。 | B ・個別の指導計画(通知表)時間をかけて丁寧に作成していただいた。経年変化がみられて非常に良い。教員の負担は大丈夫か。 | ・引き続き、「成長の記録」「指導内容表」等を活用して実態把握を行い、個別の指導計画等を作成しており、経年変化がみられて非常に良い。教員の負担は大丈夫か。具体的な(評価可能)な目標を作成する。 |
| 柱Ⅱ 基本行動の確立 | (1)温もりのある学校文化の醸成と豊かな心の育成を図る。 | ●自分から挨拶できていると思う生徒は、全体の68%である。 ○清々しい挨拶の励行、主体的な清掃、整理整頓ができるようになる。(全校集会等での「挨拶」「掃除」の表彰者は、各学部の児童生徒の1割以上) ○アンケートにおける「自分から挨拶できていると思いますか」の回答「できていると思う」の回答率を70%とする。 | ◇基本方針に基づいた取組を推進する。(小・中・高等部で基本行動の基準に沿った、系統的な取組を行う。) ◇「挨拶」「身だしなみ」「掃除」のチェックリストに基づいた評価を行う。 ◇「挨拶」「掃除」の校内検定を行い、基準を満たした児童生徒を全校集会等で表彰する。 ◇学校評価アンケート(生徒用)を実施する。 | C ・2学期より毎月1週間の挨拶運動を実施できた。 ・「挨拶」「身だしなみ」「掃除」(高)チェックリストを実施し集約できた。 ・「自分から挨拶できる」は、小13.3%中37.5%高69.8%であった。 ・正しい掃除の方法を身に付けることができた。(高)「ほうき67.4%雑巾81.4%モップ51.2%準備片付け70.9%」 ・身だしなみ自立の割合(高)「シャツ73.3%ズボン91.9%靴下・靴86%爪80.2%手洗い64%持ち物51.2%顔41.9%TPO服62.8%」 | ・引き続き毎月1週間のあいさつ運動を実施し清々しい挨拶の励行の定着推進を図る。 ・学期末での挨拶の表彰者を決定し表彰する。(各学部1割以上を目指す) ・「自分から挨拶できる」の回答は、小15%中40%高75%を目指す。 ・正しい掃除の方法を身に付ける。(高)「ほうき70% 雑巾85%モップ55% 準備片付け80%」 ・主体的な掃除の励行を図る。 | C ・キャリア教育の視点を取り入れた基本行動(「挨拶」「身だしなみ」「掃除」)の取組を積極的に推進することができたか。→肯定的評価 86% ・基本行動の取組を推進することで、児童生徒が「挨拶」「身だしなみ」「掃除」ができるようになってきていますか。→肯定的評価 71% ・児童生徒のアンケートでは、「自分から挨拶ができていると思いますか。」→肯定的評価 100名/163名(61%) :回答不能等を除外すると100名/119名(84%) ○あいさつ運動や場面場面での指導、職場実習の事前事後学習等において基本行動について指導してきている。しかし、教員も児童生徒もまだまだ実感できていない状況がみられる。教員や保護者のアンケートの自由記述では、先ず、教員や保護者がしっかりとお手本を示すことが重要というご意見が多数寄せられた。 | C ・自らあいさつができなくても、あいさつされたときに挨拶を返すことができたから評価してもよいのではないかと。 ・教職員や保護者がしっかりとお手本になるようになっていただきたい。 ・小中学校等と比べるとよくあいさつできている。 ・基本行動は大切なのでこれからも指導をお願いしたい。 | ・基本行動については、引き続き、授業や学校生活の場面をとりながら指導を行うとともに、あいさつ運動も実施する。 ・教職員自らお手本になるよう、「挨拶」「身だしなみ」「掃除」の基本行動をしっかりと行う。 |
| 柱Ⅲ 働き方改革の取れた学校づくり | (1)行事の精選による公務分掌業務の効率化 | ●H30年度に教職員を対象に学校行事に関するアンケートを実施したが、結果の分析や精選する行事の絞り込みができていないと思う割合が15パーセントであった。 ○行事の精選を行い、行事の絞り込みができていないと思う割合を10%以下とする。 | ◇アンケート結果に基づき、精選する行事を絞る。 ◇精選を行う行事の目標を具体化し、達成度を図ることができる目標を設定する。 ◇各行事の目標の達成度を把握し、継続・改善・中止レベルを設定し、基準に沿った行事の精選を行う。 ◇改善レベルは、取組内容や取組方法の見直し及び行事間の統合など様々な視点をもって検討を行う。 | C ・夏祭りや学習発表会をまとめて、「文化祭」として2学期に開催するようにした。(今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため各学部別に文化的行事を実施する。) ・各行事の目標の具現化及び達成度については、新型コロナウイルスのため実行できていない。 | ・本年度は新型コロナウイルス感染症防止の対応として、多くの行事や活動が制限されており、実施された行事は限られている。この現状・経験をもとに、行事の精選について再度検討する。 | B ・職員会、職朝等の会議は精選され、必要に応じての開催でよかった。 ・行事が縮小もしくは中止になったが、できる範囲での工夫はできた。 ○今年度は、新型コロナウイルスへの対応で、必然的に会議や行事、研修会等が大きく変更、中止となり一定精選された形となった。そのため上記の意見等が多かったが、中には会が減ることでの情報共有の心配があったり、行事についての開催方法についての様々なご意見があった。今後については、新型コロナウイルスの感染状況等を見ながら、来年度に向けて、変更することと検討することを精査しながら対応を検討する必要がある。 | B ・コロナ過で必然的に行事や会議の精選がなされたことは理解できる。 ・教職員はコロナ過ということでの業務が増えているのではないかと。 ・多くの教職員がいるので、全員のベクトル合わせが難しいと思われる。 ・コロナ過という状況を逆にとらえることで、共通認識を持ち一つの方向を向くということでのいい機会であったのではないかと。感染症対策などしっかりといただいている。 | ・児童生徒にとって必要と思われる行事については、新型コロナウイルス感染症防止対策をしっかりと講じて実施する。 ・職朝や諸会議については、その時々々の状況を勘案し、必要に応じて実施するようにする。 |